

横浜市 緑園東小学校 平成27年度版 中期学校経営方針 (平成25年4月～平成28年3月)

学 校 概 要

創立：平成2年4月1日 校長名：副島江理子 副校長名：松永 淳子 学級数：16クラス 児童数：405名  
職員数：30名 小中ブロック校名：岡津中学校・岡津小学校・緑園西小学校・上矢部小学校

学 校 教 育 目 標

笑顔いっぱい やる気いっぱい 地域に育つ 緑園の子

- (知) 自分の思いをもち、自分の力で積極的に学び続ける子を育てます。
- (徳) 規範意識をもち、自分も相手も大切に、自信と思いやりのあふれる子を育てます。
- (体) 生命を尊ぶ気持ちをもち、自らの健やかな体をつくる子を育てます。
- (公) 学校や地域に親しみ、まちの一員として積極的にかかわる子を育てます。
- (開) 様々な人とのコミュニケーションを通じて、広い視野をもち、世界とつながろうとする子を育てます。

学 校 経 営 中 期 目 標

- (1) 子ども一人ひとりが安心して、自分らしさを発揮し、互いを認め合う学校をつくりまします。  
「子ども一人ひとりが自分の思いをもち、豊かに人と関わり、さらに自分を高めていける学校にします。」
- (2) 教職員の指導力を高め、チームとして子どもたちを育てます。
- (3) 学校・保護者・地域が連携し、信頼関係に基づいた開かれた学校をつくりまします。

学校経営  
中期目標  
設定理由

本校の子どもたちは市の学習状況調査を見ると学力層A群が多い反面、D群も一定数存在し、学力の二極化が見られます。また、学力が高くても意欲や自己肯定感が低い傾向が見られます。子ども一人ひとりが自分の思いをもち、相手の思いも尊重しながら、様々な場で豊かに伝え合い、実際に行動していくことができれば、自己肯定感や有用感ももてるようになり、自分をよりよく高めていく力が育つと考えます。また、一人ひとりの学習状況に合った学習支援が行われることで学習に対する意欲と安心感も生まれると考えます。そのためには本校の児童の実態に合った学習や生活の在り方を学校として追求し、全職員が指導の工夫・指導力向上をめざし、協働して子どもたちを育てていきます。また、地域の方々の教育力を活かすことにより、地域との関わりが増し地域に関わろうとする気持ちも育てていくと考えます。

小 中 一 貫 教 育 推 進 プ ロ ッ ク 目 標

共通目標	様々な人とのコミュニケーションを大切にしながら自分らしさを発揮し、地域の中で心豊かに生きる児童生徒を育てます。 ・小中のなめらかな接続をめざした小中連携 ・体験を通しての児童生徒交流
自校の取組	子どもたちが安心して中学校に進学できるよう、小中合同授業研究会、児童中学校訪問、部活動体験、中学校教諭のワンショット授業、生徒会小学校訪問、6年担任との情報交換を実施します。

共 通 取 組 内 容

1 確かな学力	2 豊かな心	3 健やかな体
子どもたちが思いをもって、主体的に学び、互いに認め合い、学習を深めていけるような主体的・協働的な学習を追究し、学習意欲と思考力を育てます。児童の実態把握に努め、どの学力層にも応じた指導の在り方をさらに探っていきます。	「大きな心をもつ緑園の子」「自尊感情の向上」の具体化に向けて人権教育の強化を一層図っていきます。子どもたちの主体的な活動を中心として自己有用感を高め、自分も相手も大切に育てる取組をさらに充実・発展させ、互いを尊重し地域を愛する子どもを育てます。	学校保健委員会での話し合いを核として児童自身による健康的な生活に向けての取組を進め、児童の問題意識をもとに活動の充実を図ります。「なわとび」を主とした体力向上や「けが0プロジェクト」「心の健康」「食育プログラム」等に児童主体で取り組んでいきます。

重 点 取 組 分 野

4 教育課程・学習指導	5 特別支援教育	6 地域連携	7 研修・研究
多教科での学校司書連携等情報活用能力を高め、自主的に学習に取り組むスキルを身に付けます。教科担任制・思考フレーム活用、子ども司会等の学習形態・学習方法の工夫による学習意欲・思考力・判断力・表現力のさらなる育成をめざします。 「横浜の時間」のカリキュラム化を図り、体系的に、体験重視の学習の発展や活用型授業の創造を図ります。姉妹校交流中心とした交流活動について取組を進展させ、カリキュラムに生かしていきます。 個に応じた指導を追究し「指導と評価の一体化」に結びつけた授業づくりに日常的に取り組めるようにすることで学習評価の信頼性・妥当性を高めていきます。	「特別支援」から「個に応じた支援」へとさらに意識を高め、どの子にとってもわかりやすい学習のあり方を検討していきます。 専門関係機関からの助言をもとに、さまざまな状況に応じた指導の手立てを考えていきます。 個別支援学級では、保護者との共通理解のもと、個別教育支援計画を作成し学習を進めます。 「個別支援学級」への区別のない学校づくりをさらにめざしていきます。	学校・学年だより、ホームページを充実させ、わかりやすい情報発信をさらに心がけていきます。栽培体験活動・読み聞かせ・クラブ活動等で、学校教育ボランティアの教育力を活用します。 教育課題を地域と共有し、さらなる地域との協働ができる体制を整えていきます。(学校運営協議会設置)地域行事に積極的に参加し、子どもの地域参画意識を向上させます。地域と連携して、児童の安全見守りを強化します。	授業をともなう校内重点研究の充実を図り、すべての教員の授業力や学級経営能力の向上を目指し、授業改善につなげます。重点研から日々の授業改善へと意識を高め、チームで楽しく研鑽を積んでいきます。

人 材 育 成 ・ 組 織 運 営

校内重点研究で授業力の向上をめざすと共に、進んで他校の研究発表会に出向き研鑽を積みまします。  
部会の内容精選、校務分掌の整理を図り、小人数での新組織を整えていきます。小規模校の強みを教職員で共有し、それを生かした学校運営をしていきます。学年2名体制において、チームで対応という自覚をもって級外と連携をとりながら学校協力体制で取り組んでいきます。

**横浜市〇〇特別支援学校 平成●●年度版 中期学校経営方針（平成25年4月～平成28年3月）**

学校運営組織を編成する際、職員の年齢や経験、発揮できる能力等を勘案しバランスのとれた分担を行う。

- ・各組織の主任は、全校的な視野で部員をまとめ、全職員の共通理解をはかる。
- ・学年主任の指導助言を受けながら、学年経営に直接携わり指導力を磨く。
- ・メンター研修を適宜企画し、教育技術や技能を身につける。
- ・校内重点研究で授業力の向上をめざすと共に、進んで他校の研究発表会に出向き研鑽を積む。
- ・校長、副校長の助言を仰ぎながら、主幹教諭調整会議を定期的に関き、円滑な学校運営の推進に当たる。

**学 校 概 要**

（市教委に提出した学校経営計画の「学校概要」に記述した「創立年数、校長名、副校長名、学級数、児童・生徒数」等を記述する。）

**学 校 教 育 目 標**

**学 校 経 営 中 期 目 標**

学校経営  
中期目標  
設定理由

**セ ン タ ー 的 機 能 の 取 組**

**共 通 取 組 内 容**

1	確かな学力	2	豊かな心	3	健やかな体
---	-------	---	------	---	-------

**重 点 取 組 分 野**

4
---

人材育成・組織運営			